



◀牧原さんは、L型はポチポチ古いエンジンになってきたという。
▶チューニングショップも多角経営を強いられる時代になってきた。トライアルにはアクセサリ類を展示しているコーナーもある。



M R2シングルターボで 280km/hを狙う!

問題のあることがわかった。牧原さんは、仕切り板をいろいろな形に削り、試走を繰り返した。あるときはエアの流速が高すぎてだめだったし、あるときは低すぎた。模索し、試走し、ようやく流速のベストマッチングのポイントを探り当てた。

ターボは、基本的にエアの流れそのものだ。ターボからインテークまでの距離ができるだけ短く、圧力が落ちないうちにインテークまで一気にエアを送り込むための通路が必要だ。307・9km/hのレコードは、エアを制したことを意味する。

牧原さんが使うターボは、ギャレットT04、三菱のTD06/08だ。比較的大型のターボで、いかにもターボらしいチューンが面白いという。ノーマル車のターボは、小型化とレスポンス向上に目標を定めているが、牧原チ

ューンはその逆だ。できるだけターボらしさを出すのが狙いだ。高速域でガバツとくるやつである。

ギャレット製を好むのは、高速型の極端なターボ特性があるからだ。三菱製はフラットトルクを狙いとしたもので、ストリート仕様にはベストマッチする。

ターボのエアの流れをマスターした牧原さんは、どんな特性のターボでも、最高の性能を引き出すことができる。ターボを制した者がレコードホルダーになれるのだ。

牧原さんにいわせると、チューニングとはセッティングテクニックであって、どんなにいいパーツを使ったとしても、セッティングがダメならどうにもならない。というより、いまやパーツそのものによる性能の差はなくなった。だれでも、好きなパーツを自由に寄せるとができるようになったからだ。

性能のいいパーツを組んで、牧原流のセッティングを施す。ちよつとした改造を加えるのだ。その、ちよつとした改造がチューニングの「秘訣」そのもので、一朝一夕にできるものではない。聞いてみればなるほどということになるが、そこまでいくのにたいへんな労力と知恵がいる。

牧原さんは、もう4年間、ターボと取り組んでいる。名もないショップが、突然に大パワーを出すことがよくあるが、実はそれまでにたいへんな努力があったことを他人は知らない。牧原チューンはいまや一流だが、その裏には4年間の蓄積というものがある。

牧原さんはいま、MR2のスピード記録車をつくろうとしている。TD06を1個整備し、最高速280km/hをマークする計画だ。エンジンは1.6ℓのままターボの過給圧を1.2〜1.3kg/cm²に上げて、300馬力を予定している。むろんインタークーラーを装着する。

ただレコードを狙うだけなら、FRのレビンで十分だ。レビンのほうがやりやすい。あえてミッドシップのMR2を使うのは、熱の処理の問題や狭いスペースにメカを押し込むという困難さに挑戦するためだ。

そんな問題を解決しておけば、牧原さんは新しいテクニックを身につけることになる。だからこそMR2を選んだのだ。チャレンジ精神旺盛だ。そこまでやらなければ、いまのチューニング界で

勝ち残れない。かつては名を知られ、現在は無名というショップはいくらでもある。油断したら負けというのが、この世界の現実のようだ。

307・9km/hのレコードを打ち立てた牧原さんが、自分が乗るクルマはライトチューンが好みだという。ノーマルよりパワーがあり、低速もたっぷり効くというライトチューンが、ストリートでは一番だと勧める。

徹底的なチューニングは金もかかる。ノーマルの新車なら、いまや300万円は珍しくない。チューニングすれば500万円だ。あまりに金がかかりすぎる。だから、ストレスがたまらない程度のパワーがあり、走りやすいライトチューンがいいということになる。

ひところ、牧原チューンは過激だといわれた。が、最近はお変わった。過激ではなく、快適性を考えるようになったからだ。牧原さん自身も、スピード記録挑戦でチューニングテクニックのレベルを試しはするが、ストリートではむしろおとなしい。

ショップとしては、新しくホイール販売を始めた。チューニング一本ではなくなった。大阪ではとくにその筋がキビしく、チューニングばなれの傾向にある。チューニングショップも多角経営を強いられるのだ。メーカーのチューンも進んでいるし、ショップにとって現実にはキビしくなっている。

しかし、ストリートはともかく、サーキットでのチューニングは死なない。牧原チューンも、一方ではますます過激に、他方ではまたライトチューンでいくだろう。いずれにしても、トライアルの牧原チューンの名前は、当分ライバルたちの目標となりそうだ。



テクニカルサービストライアル

大阪府東大阪市豊江780の1 ☎0729-65-6823

300km/hの壁を突破した牧原チューンだが、ストリートはライトチューンを勧める。トライアルではホイールとタイヤの販売も始めた。牧原さん自身が店番をしているので相談も可能だ。